

奥永源寺 × 自動運転

暮らしを支える自動運転が令和3年4月23日から地域に実装

道の駅「奥永源寺溪流の里」を拠点とした自動運転サービス

■概要

・奥永源寺地域に限らず、高齢化や人口減少が進行する中山間地域では、地域公共交通の衰退、日常生活における移動の足の確保、物流の担い手不足など様々な課題が発生しています。

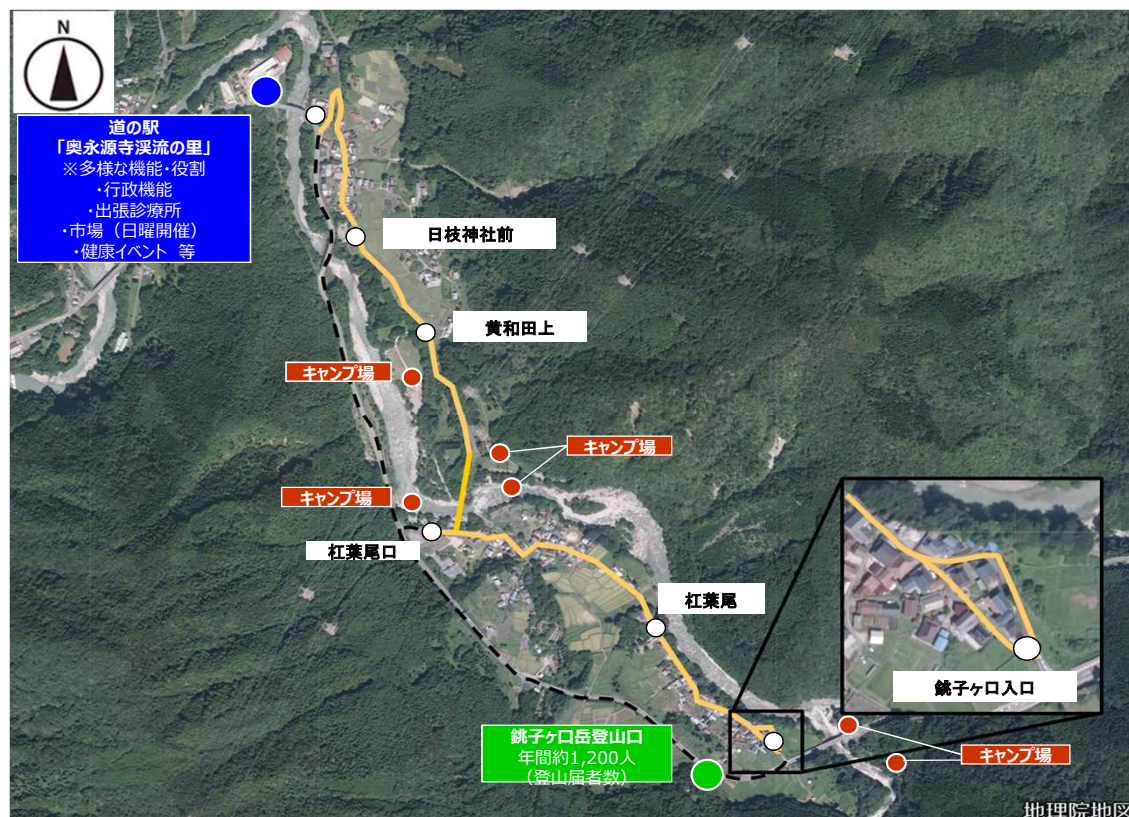
・一方、道の駅では、本地域の「奥永源寺溪流の里」についても、物販をはじめ診療所や行政窓口など、地域の皆さまに必要なサービスが集積しており、中山間地域の生活拠点として道の駅を活用することが期待されています。

・こうした中、国土交通省では、人流・物流を確保するために、物販や診療所などの生活に必要なサービスが集積しつつある道の駅を拠点とした自動運転サービスの実証実験を平成29年度より開始され、「地域指定型」の実証実験箇所を選定されました。

・平成29年11月の実証実験により、道路構造や交通への影響、気象状況などの技術的な検証を行い、また令和元年11月~12月によりビジネスモデル構築に向けた検証を行いました。

・実験結果を踏まえ、電磁誘導線による路車連携型の自動運転車両を活用して、令和3年4月23日から自動運転サービスの社会実装を開始されました。

■走行ルート



■自動運転車両

<使用車両>



<自動運転の仕組み>



路面に敷設した電磁誘導線でカートタイプの車両走行を誘導

電磁誘導線

地域住民の期待の声



■お墓参りや診療所などの身近な移動手段として自動運転サービスを利用

年を取るとお墓に行くのが苦になりますわね、考えたら「あっ、自動運転さんが動いてくださる」それで頼もうと思いました。

お墓のところに杠葉尾口というバス停があり、そこまで乗せてもらって、また帰りも乗せて欲しいとお願いしました。

■毎週日曜日に地元農作物や料理などを持ち寄り、地域住民などが主体となって販売している山里市場に自動運転サービスを使用して、野菜を出荷。

木曜日や金曜日あたりに次の日曜日に出すので、申し込みをしておく、各集会所や皆さんのお家の前とかなどに大きなカゴを用意して頂いています。

そして、日曜日の朝7時20分～7時30分頃からと自動運転が、各自の家のほうを回ってくれます。その後、8時過ぎには道の駅へ来ていただいて、並べていただいている感じです。

今までは自分の家で作ったものを余分があれば人にあげてたりしてた状態でしたけれども、自動運転で運んでいただけるという気軽さ、集配して頂いているおかげで、たくさんの方が出荷していただけています。



地域住民の期待の声

■受付とオペレータを担当者を週1回、オペレータとして勤務。

奥永源寺地域の景色とかそういうのを楽しんでいただきたいので、勧誘をさせてもらっています。

もうわざわざね、受付まで来ていただいて、「楽しかった」、「説明聞けば聞くほど乗りたくなった」って言っていただいたり楽しませてもらってます。



■地元の有志の方たちと道の駅で月に一度、サロンと言う喫茶交流会が行われています。

水曜日がサロンの日なんですよ、その前の日曜日に自動運転が、スピーカーでお客様に案内してずっとまわってくれるんです。地元の黄和田キャンディースって言うおばあちゃん達は、たいがい乗っていただいてサロンに来て頂いています。

将来的には、自動運転で道の駅に売っているお惣菜なんかを高齢者の方のお家まで配達できたら良いと思っています。

また、屋台で作ったものとかもね、自動運転で配達できたら良いなって、キッチンカーみたいな役割なども考えております。



高齢化や人口減少が進行する中で、生活に不可欠な移動手段を確保していくためには、自動運転技術を地域社会に実装していくことが必要であり、特に、高齢化が著しい中山間地域等では、待ったなしの状況にあります。

様々な方々からの期待が寄せられている自動運転サービス、地域と密着、連携しながら、新しい未来に向けて走り続けます。

